「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | | ②職名・授業者氏名 | | ③教科 | ④ペアでの  話合い活動 | ⑤グループでの  話合い活動 |
| １年１組 | | 教諭・日田　太郎 | | 国語 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | | 語り手に着目して読書レビューを書こう | | | | |
| ⑦本時のねらい | | 「私」を語り手にした第１場面を書くことの効果について、  語り手の変化や伏線、時間の経過に着目することによって、  根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるようにする。 | | | | |
| ⑧本時の評価規準 | | 【読むこと】「私」を語り手にした第１場面を書くことの効果について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。〔ノート〕 | | | | |
| ⑨  展開 | めあて | 『少年の日の思い出』の構成の工夫をとらえよう | | | | |
|  | 課　題 | 「私」を語り手にした第１場面は、どのような効果があるのだろうか。 | | | |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の生徒への手立て  ・「語り手の変化」「伏線」「時間の経過」の視点を与え、考える手がかりをもたせる。 | | | |
| 「特別な支援等の配慮を要する」生徒への手立て  ・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが難しい生徒に対し、人物関係図で視覚的に分かるように示してから言葉で表現させる。 | | | |
| まとめ | ・「ぼく」の見方や考え方はあくまでも「ぼく」から見たものであることや時間の経過を読者に伝え、作品に深みを増す効果がある。 | | | |
| 振り返り | 語り手に着目することによって、作者の意図も意識しながら小説を楽しむことができる。 | | | | |
| 板書計画  めあて『少年の日の思い出』の構成の工夫をとらえよう  課題「私」を語り手にした第一場面は、  第一場面にはどんな意図があるのか。  語り手が「私」から「ぼく」に変化しているのはなぜか。  どのような効果があるのだろうか。  ○語り手の変化  大人になった「ぼく」の心情を客観的に伝えようとしている。  大人になった「ぼく」の人物像を客観的に伝えようとしている。  ○伏線  暗い情景描写から、悲劇的な結末を想像させている。  ○時間の経過  大人になった今でも少年の日の出来事を後悔していることがわかる。  まとめ  「ぼく」の見方や考え方はあくまでも「ぼく」から  大人になった今でもエーミールのことをうらんでいる。  見たものであることや時間の経過を読者に伝え、  作品に深みを増す効果がある。  振り返り  語り手に着目することによって、作者の意図も意識しながら小説を楽しむことができる。 | | | | | | |